

I 宮城県の国際化施策

2 国際交流のあゆみ

(1)宮城県の国際交流のあゆみ

本県は、国際交流においても古い歴史を持っている。今から400年前の1613年（慶長18年）、支倉常長が伊達政宗の遣欧使節としてスペイン・ローマに渡ったことは、当時としては画期的な出来事だった。また、1804年（文化元年）には、遭難した石巻の千石船「若宮丸」の乗組員の津太夫、儀兵衛、多十郎、左平の4人が、日本人としてはじめて世界一周を果たし、長崎に帰国している。更に、1886年（明治19年）アラスカに渡り、イヌピアット族の教育と経済開発に一生を捧げた安田恭輔、1897年（明治30年）カナダに渡航し、カナダの漁業の発展に貢献した及川甚三郎など、先人たちの進取の精神は後の人々にも受け継がれ、現在でも各分野において積極的な国際交流への取組がなされている。

平成26年3月末現在、県内の自治体における姉妹・友好交流としては、宮城県及び19市町が世界各地の39都市（地域）との交流を行っており、二百数十余の民間国際交流団体においても活発な交流活動が展開されている。なかでも、昭和62年、既存の宮城県海外協会を改組して設立された財団法人宮城県国際交流協会（平成24年4月より公益財団法人宮城県国際化協会）は、本県における中核的民間国際交流組織として、また未来の東北博覧会の成功を記念して昭和63年に設立された財団法人未来の東北博覧会記念国際交流基金（平成25年4月より公益財団法人未来の東北博覧会記念国際交流基金）は国際交流事業に対する助成を主たる事業として、それぞれ本県の国際交流の推進に大きな役割を果たしている。

また、海外とのネットワークも着実に整備されており、平成2年4月に、東北地方では初の国際定期路線として仙台－ソウル線が開設され、同年7月にはグアム・サイパン線も開設された（現在の仙台－グアム線）。平成4年12月には仙台空港の2,500m滑走路の共用が開始され、その後も、仙台－香港線、大連・北京線、ホノルル線、上海・北京線が順次開設された。さらに、平成10年3月には3,000m滑走路が完成し、北米・欧州への直行便就航が可能となった。同年5月には、東北地方で初の国際定期便が仙台－ソウル間に就航し、平成15年2月には仙台－長春間にも定期路線が就航、平成16年9月には仙台－台北間の定期航路が就航している。このように、東北地方の国際化を進める上での仙台空港のゲートウェイ化が図られており、また、社団法人宮城県国際経済振興協会の海外事務所が韓国ソウル市に続き平成17年4月に中国大連市に開設されるなど、様々な分野において本県の国際化が進展している。

しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、本県と海外との窓口である仙台空港・仙台塩釜港が津波により甚大な被害を受けた。被災直後からの迅速な復旧作業により、平成23年9月には、仙台－ソウル線が運行を再開すると、順次、国際定期便の運航が再開された。また、仙台塩釜港に震災後初めて外航船が入港するなど、本県と海外とを繋ぐネットワークが着実に再構築されるとともに、今後も更なるネットワークの充実・利便性の向上が期待されている。

1613(慶長18)年	10	伊達政宗の命を受け支倉常長がスペイン国王、ローマ法王と謁見するため月の浦を出帆(1620年帰国)。
1615(元和元)年		支倉常長が、スペイン国王フィリップ3世、ローマ法王パウロ5世と謁見。
1804(文化元)年	9	遭難した石巻の千石船「若宮丸」の乗組員4人が、日本人としてはじめて世界一周を果たし、11年ぶりに帰国。
1878(明治11)年		国際貿易の機能を含む野蒜築港着工(着工後6年で建設中止)。
1886(明治19)年		安田恭輔(後のフランク安田、石巻市出身)がアラスカへ渡航(石巻市史)。
1906(明治39)年頃		及川甚三郎(東和町出身)が移住団をつくりカナダへ渡航(東和町史)。
1930(昭和 5)年		宮城県海外協会設立
1940(昭和15)年		熊谷陸軍飛行学校増田分校教育隊練習基地として、仙台空港が設置される。
1947(昭和22)年		我が国初の民間ユネスコ活動団体として、仙台ユネスコ協会が設立される。
1957(昭和32)年		仙台市とアメリカ・カリフォルニア州リバサイド市が姉妹都市を締結(全国で2番目の姉妹都市締結)。
1968(昭和43)年		宮城県とロサンゼルス市が「貿易の進展に関する共同声明」を締結。
1971(昭和46)年		仙台港開港
1978(昭和53)年	6	仙台空港に初の国際チャーター便就航。
1982(昭和57)年	6	東北新幹線開業(盛岡－大宮間)
1984(昭和59)年		県内初の大規模な国際会議である「民間ユネスコ運動世界大会」及び「国際ウイルス学会」が開催される。
1986(昭和61)年	3	仙台国際貿易港整備計画決定
1987(昭和62)年	1	東北インテリジェント・コスモス構想推進委員会発足
	3	財団法人仙台コンベンションビューロー設立
	6	宮城県と中国吉林省が友好県省を締結。
	8	宮城県海外協会を改組し、財団法人宮城県国際交流協会を設立。
	12	宮城県国際交流推進連絡会議設立
1988(昭和63)年	3	財団法人未来の東北博覧会記念国際交流基金設立
	4	仙台空港の2,500m滑走路拡張工事に着手(1993年供用開始)。
1989(平成元)年	4	宮城県が総務部に国際交流室を、仙台市が企画局に国際交流課を設置(県国際交流室は1990年から国際交流課)。
	4	宮城県留学生交流推進会議設立
1990(平成 2)年	1	自治省が財団法人宮城県国際交流協会を地域国際化協会に認定。
	4	仙台－ソウル定期便就航
	5	宮城県及び塩釜市・石巻市・気仙沼市とシアトル港湾局(アメリカ)が友好港を提携。

I 宮城県の国際化施策

1990(平成 2)年	7	仙台－グアム・サイパン定期便就航
	11	宮城県とブリティッシュ・コロンビア州(カナダ)が教育交流協定を締結。
1991(平成 3)年	3	「宮城県国際交流推進大綱」策定
	9	仙台国際センター開館
	10	日米市長・商工会議所会頭会議
	11	仙台－シンガポール定期便就航
	12	仙台－釜山・済州島定期便就航
1992(平成 4)年	7	東北国際交流協会連絡協議会設立
	8	米国・デラウェア州において「宮城紹介展」開催。
	9	ドイツ・ザールランド州との交流事業「宮城県友好交流留学生推進事業」開始(以後毎年、大学生2名を10ヶ月間相互に派遣・受入れ)。
	10	中国吉林省と第3次交流計画締結。
	12	社団法人宮城県国際経済振興協会が韓国ソウル市に海外事務所を開設。
1993(平成 5)年	12	仙台空港2,500m滑走路拡張工事完成
	11	ドイツ・ザールランド州において「宮城県紹介展」開催。
1994(平成 6)年	12	仙台－香港定期便就航
	9	仙台－大連・北京定期便就航
	10	中国吉林省と第4次交流計画締結。
	11	仙台－ホノルル定期便就航
1995(平成 7)年	11	アメリカ・デラウェア州と交流事業合意書締結。
	4	仙台空港3,000m滑走路拡張整備事業着工
	6	アメリカ・デラウェア州との交流事業「海外交流ネットワーク人材育成事業」開始。
1996(平成 8)年	7	東南アジアコンテナ定期航路開設
	1	仙台空港心旅客ターミナル国際線部分完成(3月供用開始)
	2	北米/日本・アジア/地中海コンテナ定期航路開設
1997(平成 9)年	10	中国吉林省と第5次交流計画締結。
	3	仙台－ソウル定期便デیلیー化, 仙台－釜山便休止
	4	日本/北米西海岸コンテナ定期航路開設
	5	宮城県知事がデラウェア州を訪問。近い将来の姉妹提携に向けて努力する旨の覚書に署名。
	7	「宮城・吉林友誼園」開園式・宮城県友好訪問団を派遣(友好提携10周年記念)。
	8	吉林省友好代表団の受入(友好提携10周年記念祝賀会開催)。
1998(平成10)年	9	デラウェア州訪問団(団長:デラウェア州知事)が来県。両県州知事が姉妹県州締結に関する議定書に署名。
	12	2002FIFAワールドカップTM仙台宮城大会開催決定(宮城スタジアム)
	3	仙台空港3,000m滑走路供用開始
	3	仙台－上海・北京線就航
1998(平成10)年	4	仙台港国際ビジネスサポートセンター(仮称)起工式
	7	ブラジル宮城県人会創立45周年記念宮城県ブラジル親善訪問団を派遣。
	9	デラウェア州知事等訪問団が来県。
	9	韓国観光公社仙台支社業務開始
	9	アジア・太平洋環境会議(エコ・アジア'98)開催
1999(平成11)年	10	国際交流経済サミット仙台会議開催
	10	吉林省友好代表団が来県。
	11	江沢民中国国家主席が来県。
	4	デラウェア州訪問団が来県。
	5	東北地方初の国際航空貨物定期路線(仙台－ソウル間)開設。
	6	宮城県中国浙江省訪問団派遣事業を実施。
2000(平成12)年	6	日本/アジアコンテナ定期航路開設
	7	仙台空港の運用時間が1時間30分延長(午前8時～午後9時)。
	9	第1回日米姉妹都市会議開催
	11	SACT(仙台エアカーゴターミナル(株))新施設第1期分供用開始
	1	吉林省友好代表団が来県。
	1	中国浙江省訪問団が来県。
	1	デラウェア州協議団が来県。
2000(平成12)年	3	仙台港国際ビジネスサポートセンター(愛称:アクセル)グランドオープン
	7	SACT(仙台エアカーゴターミナル(株))新貨物施設稼働
	10	デラウェア州に宮城県交流訪問団を派遣。

I 宮城県の国際化施策

2001(平成13)年	2	中国吉林省と第7次交流計画締結。
	4	仙台塩釜港が特定重要港湾に昇格。
	4	吉林省友好訪問団が来県。
	5	宮城県知事がイタリア・ローマ県を訪問。姉妹県提携に関する覚書に署名。
	7	仙台空港の運用時間が1時間延長(午前7時30分～午後9時30分)。
	10	ローマ県訪問団(団長:ローマ県知事)が来県。両県知事が姉妹県締結に関する議定書に締結。
	12	2002FIFAワールドカップTM・イタリアサッカーチームが仙台市でのキャンプ開催を決定。
2002(平成14)年	1	吉林省に第8次交流計画事前協議団を派遣。
	5	吉林省友好代表団が来県。
	6	ローマ県訪問団が来県。
	6	2002FIFAワールドカップTM宮城大会開催(宮城スタジアム)
2003(平成15)年	2	仙台ー長春間 定期路線就航
	4	宮城県産業経済部に「国際経済室」を設置。
	4	宮城県産日本酒とローマ県産ワインをトータルでプロモーションするための「コンペ di Vino Romano」事業開始。
	5・7	デラウェア州政府から宮城県北部連続地震に対する見舞いメッセージが届く。
	6	吉林省へ重症急性呼吸器症候群(SARS)被害への見舞金(200万円)を贈呈。
	10	吉林省教育視察団が来県。
	11	東北6県の合同で「東北フェアin上海」開催。
12	吉林省医療技術調査団が来県。	
2004(平成16)年	2	中国吉林省第9次交流計画事前協議団が来県。
	3	「2004年日中経済協力会議-於仙台」が仙台市において開催される。
	4	宮城・ローマ3周年記念イベントの一環として、三越イタリアフェアにおいて各種イベントを実施。
	6	「コンペ di Vino Romano」事業から「ローマと宮城を繋ぐワイン」が誕生、販売を開始。
	8	岩手県と合同で「大連商談会」を開催。
	8	宮城県文化交流訪問団を派遣。
	9	仙台ー台北間 定期路線就航
	10	宮城・ローマ友好姉妹県締結3周年記念イベントを開催。
	10	国際交流課長等をローマ県に派遣し、交流事業の調整、意見交換を実施。
	10	宮城スローフード協会等主催でローマ市、ミラノ市において「日本酒セミナー」を開催し、宮城の地酒のPRを実施。
	11	吉林省第9次交流計画締結
2005(平成17)年	1	宮城県環境生活部長とデラウェア州経済開発局長が交流事業合意書に署名(対象期間:2年間→無期限化)。
	2	NPO派遣モデル事業を創設し、1団体をデラウェア州に派遣。
	4	宮城県大連事務所(社団法人宮城県国際経済振興協会)開設
	4	吉林省政府代表団が来県。
	6	吉林省に宮城県教育庁訪問団を派遣。
	7	吉林省に宮城県実務者協議団を派遣。
	7	吉林省人民代表大会訪問団が来県。
	8	吉林省文化交流訪問団が来県。
	8	角田高等学校とデラウェア州ドーバー高等学校が姉妹校を締結。
	8	ハワイ宮城県人会復興10周年記念式典に宮城県訪問団(団長:副知事)を派遣。
	9	吉林省の「第1回北東アジア投資貿易博覧会」に宮城県訪問団(団長:副知事)を派遣。
	9	イタリア貿易振興会仙台事務所開設
	10	吉林省教育庁訪問団が来県。
	10	吉林省地震局訪問団が来県。
	11	デラウェア州ドーバー市長、大学関係者が来県。
	11	吉林省民政庁訪問団が来県。
	2006(平成18)年	1
2		宮城スローフード協会と共催で、パネルディスカッション「イタリアとみやぎのスローフードの魅力」を開催。
3		吉林省友好訪問団が来県。
4		宮城県が産業経済部に新たに国際局(国際政策課, 国際交流課, 国際経済課)を設置。
5		「2006日中経済協力会議-吉林」に宮城県訪問団(団長:知事)参加。
5		吉林省統計局訪問団が来県。
7		吉林省に宮城県教育視察団を派遣。

I 宮城県の国際化施策

2006(平成18)年	8	吉林省に宮城県文化交流訪問団を派遣。
	9	吉林省の「第2回北東アジア投資貿易博覧会」に宮城県訪問団(団長:副知事)を派遣。
	11	ロシア連邦ニジェゴロド州政府調査団が来県。
	12	「みやぎ国際戦略プラン」策定
2007(平成19)年	2	宮城・ローマ5周年記念イベント、シンポジウム「イタリアの食を宮城から」開催。
	3	宮城・デラウェア教育交流計画により、本県高校生がデラウェア州を訪問。
	4	ロシアニジェゴロド州知事が来県。「日本国宮城県とロシア連邦ニジェゴロド州との間の協力に関する覚書」締結。
	4	宮城県米国訪問団を派遣(姉妹交流10周年記念行事のためデラウェア州訪問、東北大学米国事務所開所式、南カリフォルニア県人会訪問、企業訪問等を実施)。
	4	イタリア貿易振興会が日伊デザインセミナーを本県で開催。
	6	吉林省友好代表団が来県(「宮城・吉林友好フェスタ」として、吉林省写真展等を実施)。
	6	イタリア貿易振興会等が日伊ナノテクフォーラムを本県で開催。イタリア貿易省副大臣、イタリア貿易振興会駐日代表等が知事を表敬訪問。
	6	ロシア連邦ニジェゴロド州他のジャーナリスト訪問団が来県。
	7	「多文化共生社会の形成の推進に関する条例」制定
	7	海外交流ネットワーク人材養成事業による本県大学生のデラウェア州訪問。
	7	海外交流ネットワーク人材養成事業によるデラウェア大学学生の本県受入れ。
	8	吉林省文化交流訪問団受入(剪纸芸術展の開催)。
	8	吉林省の第3回北東アジア投資貿易博覧会に参加するため、宮城県訪問団を派遣。
	10	海外自治体幹部交流協力セミナー2007による海外自治体幹部の本県受入(デラウェア州から2名参加)。
11	吉林省旅游局訪日団の受入れ。	
11	吉林省教育視察団の受入れ。	
11	駐日イタリア大使館学術文化担当官が副知事等を表敬訪問。	
2008(平成20)年	1	吉林省商務庁訪問団の受入(第4回北東アジア投資貿易博覧会PR)。
	2	交流事業担当者をローマへ派遣。
	2	ニジェゴロド州で「宮城特産品フェア」を開催、同州知事が参加。
	3	ニジェゴロド州で開催された「地域再開発セミナー」で本県職員が講演。
	6	ポローニャ「国際産業研究開発展」への東北大学の出展支援。
	7	「第9次交流計画協議書」の見直しに係る吉林省協議団の受入れ。
	7	宮城県文化交流訪問団を派遣(茶道文化交流茶会の開催)。
	7	海外交流ネットワーク人材養成事業による本県大学生のデラウェア州訪問。
	7	海外交流ネットワーク人材養成事業によるデラウェア大学学生の本県受入れ。
	8	県職員吉林省東北師範大学へ派遣(1名)。
	9	第4回北東アジア投資貿易博覧会への参加に合わせ、「第9次交流計画協議書」を締結。第三期覚書調印(平成21~22年度)のため宮城県訪問団を派遣(調印日9.3)。
	9	海外自治体幹部交流協力セミナー2008による海外自治体幹部の本県受入(デラウェア州から2名参加)。
	9	ミラノ「ナノフォーラム」への東北大学研究者のスピーチ参加支援。
	10	本県で開催された「ビジネス&テクノ東北2008」にニジェゴロド州がブース出展。
12	経済交流協議担当者がデラウェア州を訪問し、経済交流協議を実施。	
12	駐日イタリア大使の知事等表敬訪問受入れ。	
2009(平成21)年	2	イタリア貿易振興会、仙台市、東北大、JETRO仙台との協力による「日伊ナノテクセミナーin宮城」開催。
	3	ローマ「ナノテク2009」への東北大学研究者及び本県企業参加(招待)。
	3	経済交流協議担当者がデラウェア州を訪問し、経済交流協議を実施。
	5	ニジェゴロド州へ訪問団を派遣(団長:副知事)し、「共同宣言書」に調印。
	6	トリノ「ナノフォーラム」への本県企業参加(招待)。
	9	「日伊ビジネスグループ」への参加によるピエモンテ州との経済交流協議及び東北大学とトリノ工科大学との連携支援。
	10	「イタリアの秋2009」事業により、宮城県美術館で「トリノ・エジプト展」を開催。
	10	駐日イタリア大使館書記官等の県教育長表敬訪問受入れ、「トリノ・エジプト展」開会式への出席。
	10	吉林省文化交流訪問団(吉林省京劇院京劇公演の開催)の受入れ。
	10	吉林省造林管理訪日研修視察団の受入(JICA円借款事業)。
	10	吉林省との経済交流協議に係る職員派遣。
	11	吉林省延辺朝鮮族自治州訪問団(延辺大洋経済貿易有限公司副総経理)の受入れ。
11	宮城県デラウェア訪問団を派遣し、デラウェア州との経済交流を柱とする交流合意書に署名。	
11	デラウェア州リホボス・ビーチ映画祭における日本映画上映に関する支援、本県産品等の展示。	

I 宮城県の国際化施策

2010(平成22)年	4	アジアナ航空20周年を記念し、韓国訪問団を派遣。
	4	中華民国工商協進会との国際交流協定書更新に合わせ、事前調査団を台湾に派遣。
	5	ニジェゴロド州へ訪問団を派遣(団長:知事)し、両知事により「協力に関する協定」を締結。また、みやぎロシア貿易促進コンソーシアムとニジェゴロド州商工会議所が協力協定に署名。
	5	「第9次交流計画協議書」第4期覚書調印(平成23～24年度)(調印日5.28)のため、吉林省交流協議団が来県。
	8	県職員を吉林省東北師範大学へ派遣(1名)。
	8	県及び県議会連からニジェゴロド州政府及び州議会へ森林火災に係る見舞金を送金。
	9	中華民国工商協進会との国際交流協定書更新のため、宮城県訪問団を派遣。
	9	吉林省の第6回北東アジア投資貿易博覧会に参加するため、宮城県訪問団を派遣。
	9	仙台市において、2010年APEC第3回高級実務者会合が開催される。
	10	吉林省美食祭への参加と料理人講習会実施のため、宮城県訪問団を派遣。
	11	ニジェゴロド州から研修員(国際交流担当)を受入れ。
11	日韓・東北フォーラムへ参加。	
2011(平成23)年	2	経済交流協議担当者がデラウェア州を訪問し、経済交流協議を実施。宮城の醸造品の販路開拓事業「Delicious Healthy Miyagi」開催(酒造企業2社同行)。
	2	ニジェゴロド州から研修員(伝統工芸、観光担当)を受入れ。
	3	【東日本大震災発生】以後、各国から義援金、物資、メッセージ等、多くの支援を受ける。
	4	デラウェア州知事夫妻等の呼びかけによる宮城県支援イベント開催。同州ホームページによる宮城県支援金募集。
	5	中華人民共和国 温家宝国務院総理及び大韓民国 李明博大統領が来県(被災地訪問)。
	5	震災後初めて、仙台塩釜港に外航船が入港。
	6	インドネシア ユドヨノ大統領が来県。
	6	震災後初めて、仙台塩釜港から輸出貨物を積載したコンテナ船が出航。
	6	ニジェゴロド州政府から県へ寄附金を送金。
	6	台湾 卓伯源彰化県長が来県。
	8	第13回日中韓3カ国地方政府交流会議へ出席。
	8	タイ王国 タクシン元首相が来県。
	9	吉林省の第7回北東アジア投資貿易博覧会に参加するため、職員を派遣。
	9	日中経済協力会議(吉林省長春市で開催)へ参加。
	9	仙台ーソウル線(国際定期便)運航再開(火・木・日、週3往復)
	9	震災後初めて、外貿定期コンテナ航路(中国/韓国航路)が再開。
	9	フィリピン共和国 アキノ大統領が来県。
	10	海外自治体幹部交流協力セミナー2011により海外自治体幹部が本県を訪問(デラウェア州から1名参加)。
	10	デラウェア州訪問団(団長:州務局長)が来県。大震災に係る見舞金贈呈、被災地を訪問。
	10	仙台ーグアム線(国際定期便)運航再開(木・日、週2往復)
10	仙台ー台北線(国際定期便)運航再開(木・日、週2往復)	
11	外務省事業でSF復興PR事業宮城訪問団を派遣。	
11	復興・観光支援のための日韓パートナーシップ懇談会へ参加。	
2012(平成24)年	1	デラウェア州に県職員を派遣し、販路開拓イベント及び経済交流促進に向けた意見交換等を実施。
	3	ニジェゴロド州よりラバーザ中小企業消費市場振興省大臣、国際局長、同州商工会議所、企業来県
	4	吉林省省長訪問団が来県。
	4	米国サンフランシスコ・ロサンゼルスでの震災復興・観光PRイベント開催。
	5	仙台ーソウル線(国際定期便)がデイリー運航となる。
	6	アルメニア共和国 サルグシヤン大統領が来県。
	6	ベルギー王国 マチルド皇太子妃が来県。
	7	県職員を吉林省東北師範大学へ派遣(1名)。
	8	吉林省国際青少年芸術祭に雀踊りチームを派遣。
	8	吉林省との友好交流25周年を記念して、知事訪問団を吉林省に派遣。
	8	香港経済セミナーin仙台的開催(主催:駐東京香港経済貿易代表部)
	9	県内企業含む宮城県訪問団(団長:河端部長)がニジェゴロド州を訪問。復興状況説明、商談会等実施。
	9	吉林省への観光PR訪問団に職員を派遣(1名)。
	9	ニュージーランド首相が来県。
10	台湾に訪問団を派遣。北海道・東北と共同で物産展を開催。	
11	ニジェゴロド州からの若手工芸品作家等訪問団を受入、県内若手工芸品作家等と交流。	
12	デラウェア州訪問団(団長:知事)が来県。交流15周年記念レセプション等実施。	

I 宮城県の国際化施策

2013(平成25年)	1	宮城県ソウル事務所開設20周年記念行事開催。
	5	台北中日経済文化代表処代表が来県。
	5	台南市副市長が来県。
	6	本県若手工芸品作家訪問団がニジェゴロド州を訪問、同州工芸品関係者らと交流。
	7	デラウェア州企業訪問団が来県。県内企業や大学、研究所等とのマッチングを実施。
	7	県内企業含む宮城県訪問団がデラウェア州を訪問。州農業祭に参加し、県産品の紹介、観光PRを実施。
	7	ブラジル・メキシコに宮城県訪問団(団長:副知事)を派遣。ブラジル宮城県人会創立60周年記念行事やメキシコ宮城青葉会創立30周年記念行事に参加。メキシコでは慶長遣欧使節出帆400周年を記念し、支倉常長像への献花を実施。また、日本ブランド発信事業を実施。
	7	台湾立法院院長が来県。
	8	亜東関係協会会長が来県。
	9	仙台―ソウル線(国際定期便)が週4便(月・水・金・日)運航となる。
	9	東北観光推進機構とともに第9回北東アジア博覧会に参加。
2014(平成26年)	10	「2013年日中経済協力会議―於新潟」に出席。
	11	吉林省対外友好協会訪問団を受入れ。
	2	吉林省に職員を派遣(3名)。
	3	メキシコ連邦上院アジア太平洋外交委員会トーレス委員長が来県。
	3	仙台―上海―北京線(国際定期便)運航再開(水・日、週2往復)